

文書館だより

ふみくら

文庫

第4号

2005年4月25日発行

藤沢市文書館

Fujisawa city archives

〒251-0054 藤沢市朝日町12-6

電話 0466-24-0171 FAX 0466-24-0172

URL <http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/>



錦絵は、浮世絵の多色摺版様式の一つで錦のように美しい色合いが特徴です。18世紀後半から明治初期まで見られます。

この絵を描いた絵師は一震斎芳形(いっしんさい・よしカタ 1841~1864)、版元は越前屋平三郎(通称：越平)です。内容は、当時の第14代将軍徳川家茂(いえもち 1847~1866)が、文久3年(1863)3月に上洛する際の様子を描いたものです。馬子が荷駄を負う馬の手当をしている姿が描かれており、馬の目が行列の行き先をじっと見ているのが印象的です。ちなみに、正面にそびえる山は相模大山だといわれています。

なお、この錦絵は近隣では神奈川県立歴史博物館、東京大学史料編纂所、国立国会図書館などでも所蔵されています。また、残された芳形の絵としては、このシリーズのなかの「東海道 桑名」(東京大学史料編纂所蔵)があり、その他に「東海道路ヶ谷之風景」(横浜開港資料館蔵)などがあります。(中村)

この錦絵のインターネットでの検索方法

インターネットで「浮世絵画像リンク集」(http://www.geocities.jp/web_ukiyo/link2.html)を開き、「錦絵検索システム」をクリックして、「錦絵書誌検索」をクリックし、「東海道 藤沢」と入力して検索を実行します)

錦絵『将軍上洛東海道行列図』のシリーズから「東海道 藤沢」〔文久3年(1863)4月〕

* 目次 *

「(続)市史別編2」「市史研究」「史料集」「藤沢山日鑑」が揃って刊行されました.....	2
連載 第4回 古文書の読み方(解答編)	3
藤沢山日鑑茶話 第3回「お坊さんのつぶやき」.....	4
ミニコミ誌のご紹介.....	4

「(続)市史別編2」「市史研究」 「史料集」「藤沢山日鑑」が 揃って刊行されました

有償頒布は4月25日から

この度、「(続)藤沢市史別編2」「藤沢市史研究」第38号、「藤沢市史料集」第29号、「藤沢山日鑑」第23号がそれぞれ刊行されました。

市民の皆さんへの有償頒布は、いずれも4月25日(月)からを予定しています。頒布の窓口は、文書館1階「市民資料室」と市役所本館1階の「市政情報コーナー」(直接頒布)及び市民センター・公民館(取り次ぎ頒布)です。郵送頒布については、文書館まで電話でお問い合わせください。

「(続)藤沢市史別編2」.....(価格 2500円)

この「(続)藤沢市史別編2」と来年3月に刊行を予定しています「別編3」との共通テーマは『ニュースは語る20世紀の藤沢』です。この巻では1901年から1955年までをとりあげ、当時の新聞記事を題材に年表をひもとくように藤沢の歴史を読み物としてまとめています。

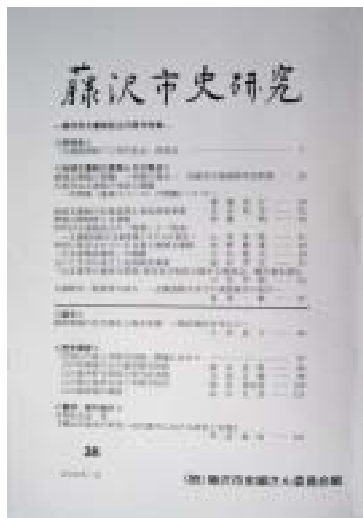
「別編3」は、1956年から2000年までを収録するもので、現在、市史編さん委員会で刊行準備を進めています。

この「別編2」は、市内の書店でもお求めいただけます。詳しくは、文書館にお問い合わせください。



「(続)藤沢市史別編2」

「藤沢市史研究」第38号.....(価格 800円)



第38号は、当館の設立30周年といたしまして、記念座談会の内容をお伝えするとともに、『地域文書館の課題とその周辺』をテーマに各方面の方たちにご執筆をお願いいたしました。(敬称略)

座談会

「地域文書館の課題と展望」

地域文書館の課題とその周辺

論文

湘南地域の住宅地化と海水浴場 - 鵜沼地区を中心に - (八田恵子)

歴史講座

江戸將軍家の江島弁財天信仰 (鈴木良明)

江の島弁財天信仰と別当岩本院 (圭室文雄)

江の島の島民生活と弁財天別当 (池田真由美)

江の島参詣の風俗 (品川文彦)

書評・新刊紹介

大西比呂志著『横浜市政史研究 - 近代都市における政党と官僚』

(季武嘉也)

「藤沢市史料集」第29号.....(価格 400円)

ここに収録した史料は、小塚村(現・藤沢市村岡地区)に残された法令集のうち、すでにこの『藤沢市史料集』で「相模国鎌倉郡小塚村『御用留』」として6冊(第16、17、19、21、25、26号)が刊行されていて、その続編にあたります。今回収録された明治5年から6年にかけては、まさに明治新政府の手による新制度が実施さ

れはじめた時期にあたり、戸籍法や地租改正に関わる諸調査や養蚕や菜種油などの諸商売に関する通達から、太陰暦から太陽暦への暦の変更や鉄道開設に関するお知らせまで、様々な内容が記されています。また、陸奥宗光や江藤新平など、明治維新における著名人の名前も散見されますので、探してみてもいいのではないでしょうか。

「藤沢山日鑑」第23巻.....(価格 4000円)

市内西富にある遊行寺(藤沢山清浄光寺)に残されている日誌を、翻刻したものです。遊行寺や周辺地域の出来事、来訪者、天候などが記され、藤沢の歴史を知る貴重な資料です。この巻には弘化5(嘉永元、1848)年から嘉永4年(1851)までが掲載されています(嘉永2年は欠)。天候不順や流行病などの記事がみられるほか、嘉永3年

から4年にかけては、境内の宇賀神堂の建築についての記事がみられます。口絵写真は遊行寺で使われていた役職ごとの印を押した「藤沢山清浄光寺役者印鑑」です。巻末の解説は「遊行上人相続の日について」で遊行54代尊祐上人相続時の資料も掲載されています。

本文

差上申一札之事

一、切支丹宗門之儀堅御制禁一候条
御領分百姓地借店借奉公人
等一至迄入念老人別相改候処
紛鋪宗門之者老人茂無御座候
若御法度之宗門之者有之隱置
外々より及露顯二あるて八名主并五
人組迄何様の曲事一茂可被仰付候
銘々宗旨相改菩提寺宗判取揃
差上申処一札仍如件

相州鎌倉郡 名主 彦右衛門(印)

藤沢山内 善徳院 (印) 女房 成四十才

母 成三十六才

母 成五十七才

母 成五十七才

母 成五十七才

母 成五十七才

(以下略)

読み下し文

差し上げ申一札の事

一、切支丹宗門之儀堅く御制禁一候条、御領分百姓地借(じかり)店借(たなかり)奉公人等一至るまで入念老人別に相改め候処、紛鋪(まぎらわしき)宗門之者老人もござなく候、若(もし)御法度之宗門之者之れ有り隠し置き、外々より露顯に及ぶにおいては名主并に五人組まで何様の曲事(くせこと)にも仰せ付けらるべく候、銘々宗旨相改め菩提寺宗判取り揃え差し上げ申処一札仍(よつて)件(くだん)の如し



【問題】

写真の古文書は、江戸時代の文書の中で基本的な帳簿の最初の部分です。この文書の名称をお答えください。

【答え】

宗門人別改帳(しゅうもんになべつあらためちょう)、宗旨人別改帳(しゅうしになべつあらためちょう)などさまざまな呼称があります。

【解説】

主としてキリシタン統制のため作成された帳簿で村の個々人が寺院の檀家(だんか)であることをその寺院が証明しました。

江戸時代の寛文五年(1665)より幕府の寺請制度が施行されるとともに幕府領において作成されるようになりました。寺請制度は寺院(檀那寺)がその檀家であることを証明することによりキリシタンや不受不施派などの禁教の信徒でないことを保証しました。

この文書は嘉永3年(1850)の鎌倉郡西村の「宗門改人別帳」で「藤沢山」とは遊行寺の山号、善徳院はかつてあった遊行寺の塔頭(たちゅう 子院のこと)です。写真には善徳院が、彦右衛門家がその檀家で

あることを証明した印判(宗判)が捺印されています。

また、文書の紹介は省きますが、家族の名前とその続柄、年齢などについても記され、当時の家族形態や年齢構成を知ることができます。因みに70才以上は18人で最高齢者は91才(女性)です。その他地借(借地人)、店借(借家人)、奉公人(下男・下女)なども記されており、村内の階層構成を知ることでもあります。末尾には戸数や人口が集計されて記されており、戸数は116軒、人口は519人(男263人・女256人)、この内地借34軒(174人)、店借(借家)43軒(135人)で、6割以上が借地や借家の人々で占められていることがわかります。

なお、西村116軒の家々が属した檀那寺は善徳院のほか遊行寺の塔頭真浄院、真光院、長生院、柄徳院(後に廃寺)、貞松院(後に廃寺)、藤沢宿内の大鋸町真言宗感応院、坂戸町浄土宗浄(常)光寺、同町日蓮宗妙善寺、同町浄土真宗永勝寺、同町真言宗莊嚴寺及び鎌倉郡玉縄村禅宗天嶽院、日蓮宗久成寺、大船村真言宗多門院、弥勒寺村日蓮宗弥勒寺・宝泉寺(後に廃寺)、渡内村禅宗慈眼寺、高座郡鵜沼村浄土真宗万福寺の諸寺院が記されています。(石井)

藤沢山日鑑は遊行寺の公用日記ですから、しごく真面目に書かれていると皆さん思われるでしょう。もちろん大部分はその通りなのですが、ときどきお坊さんの本音や、冗談などが書かれています。そんな記事に出会うときは、江戸時代のお坊さんたちがぐっと身近になる瞬間です。日鑑を書くのは「近侍司」(ごんじし)という役で、十日ごとに交代します。当番の名前も記録されるので、誰が書いたかもわかります。さあ、どんなことを書いているのでしょうか。

お坊さんとお金も必要で、ついこんな本音も出ます。延享3年(1746)3月4日、ある末寺が御朱印の書替にきたとき、財政難からか、遊行寺の部署への挨拶のお金を出しません。そのため、中には「しわん坊(けち)」などと口にするものもいたそうです。

明和6年(1769)は、3月に遊行53代尊如上人の相続があるなど出費が多く、開山忌も赤字でした。8月28日には「近侍者諸勘定、後々モカリ(借り)アルヘシ、呼々(嗚呼)頭痛」とあります。

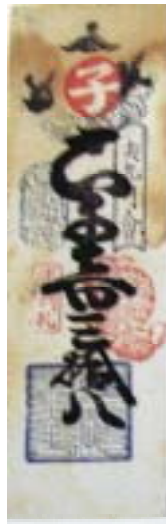
また、こんな話もあります。宝暦10年(1790)3月20日、仙龍というお坊さんに、今でいう宝くじの「富札」が当たり、金18両を受け取ることになりました。このときのコメントは「しやわせなる人に御座候」でした。

駄じゃれやお国なまりもみられます。明和2年(1765)7月5日、この日は明け方からものすごい雷だったので「雷敷藤沢山二候」。

ちなみに当館刊行の『藤沢山日鑑』も23巻にもなり、「もう沢山日鑑」なんて言われたことも。だからこれを見つけたときは、思わず笑ってしまったのです。

明和7年(1770)4月23日も嵐でした。こんな時にはついでが出るのでしょうか「今七ツ少過、大雷声・大氷降ル、是八何タルコトダンベイ」。これを書いた了本は北関東あたりの出身だったのかもしれませんが。(酒井)

〔参考資料〕



『富札』(紙の博物館所蔵・東京都北区王子)と『御免富一覧』(国立国会図書館所蔵)・…いずれも『ビジュアルワイド江戸時代館』(小学館発行)から転載したもので、本文中の富札とは異なります。

***** ミニコミ誌のご紹介 *****

市民資料室では、次のようなミニコミ誌を所蔵しています。その一部については、バックナンバーも保管していますので、どうぞご利用ください。

『江ノ電沿線新聞』 江ノ電沿線新聞社

(月1回1日発行)

1990年から所蔵(欠号あり)

江ノ電沿線地域の文化や歴史にかかわる話題が多く掲載されています。

『湘南朝日』 湘南朝日新聞社

(月2回第1・第3月曜日発行)

1990年から所蔵(欠号あり)

地域の話題のほか、短歌・俳句、少年サッカー・野球の結果などのコーナーも。

『湘南物語』 湘南未来社

(月1回1日発行)

1995年から所蔵(欠号あり)

編集後記

この度、「(続)藤沢市史別編2」を刊行いたしました。市民の皆さんにとって興味ある記事を豊富に取り入れて、編集いたしました。ぜひ一読をおすすめいたします。

(誌名の五十音順)

ハンディサイズの冊子に、人、モノ、味などの話題が掲載されています。

『湘南よみうり』 湘南読売会

(月1回1日発行)

1990年から所蔵(欠号あり)

一面は湘南ゆかりの各界著名人のインタビュー記事が載っています。

『湘南リビング』 湘南リビング新聞社

(月3回土曜日不定期発行)

1993年から所蔵(欠号あり)

家庭生活に密着したファミリー向けの話題や情報が中心です。

『タウンニュース』 タウンニュース社

(週1回金曜日発行)2000年3月～

地域に関する情報として自治体にかかわる話題なども取り上げられています。

ます。

「別編3」は来年3月の刊行に向けて準備を進めています。ご意見、ご感想をお寄せいただければ幸いです。